

弘大、啓発型健診を導入

中路教授「来年2月から」

都内で講演



弘前大学と県、弘前市は23日、東京都千代田区のホテルで、健康に関する膨大なデータの解析をテーマに

した「ヘルシーエイジング・イノベーションフォーラム」を開いた。同大学院医学研究科の中路重之教授

が県内の取り組みについて基調講演し、健康診断の結果を即日提示しデータを基に健康教育を行う「啓発型健診」を、来年2

月から試験的に行うことを明らかにした。

弘前大を拠点とした健康で長生きできる社会づくりの取り組みは、2013年に国の研究プログラム「センター・オブ・イノベーション(COI)」に採択されている。

COI研究リーダーを務める中路教授は、健診受診者の増加、企業の健康づく

りへの参画など本県でも変化が起こり始めているとしたものの、「がん死亡率が全国ワーストで、まだまだ先は長い」と指摘した。

啓発型健診は今後のCOIの目玉事業として紹介。「健診のほとんどが健康レベルを教えるだけで終わっている。健診結果をすぐに示し、その場で生活習慣などの教育を行うことで、症状のない人にもアプローチできる」と意義を語った。

フォーラムには全国各地の企業や大学、自治体などから約600人が参加した。

(古川靖隆)